

加須市 Flyingcarp Wind Orchestra 第2回定期演奏会

2021/6/27
パストラルかぞ大ホール



主催：加須市 Flyingcarp Wind Orchestra



加須市 Flyingcarp Wind Orchestra

団長 鷗田 美幸

本日は、加須市 Flyingcarp Wind Orchestra 第2回定期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。団員一同心より御礼申し上げます。

昨年に誕生した当団にとって今回は2回目の演奏会となります。今回の演奏会に向けた練習でも、緊急事態宣言の発令による練習停止を余儀なくされるなど、制限の多いものとなりました。しかし、どのような状況になろうとも私たちの「音楽を楽しみたい」という思いは変わりません。

また今回は、埼玉ルミナス吹奏楽団の皆さんとご一緒しました。同年代のメンバーが多いこともあり、合同練習では大きな刺激となりました。このような皆さんと共に演奏会を作り上げられることを本当に幸に思います。ありがとうございます。

最後に、私は皆様が日々を安全に健康でいられることが一番であると思っています。しかしそれにより音楽が無くなっても良いとは思いません。このようなときこそ万全な対策の上で、私たちが音楽を楽しみ、それを皆様に聴いていただきたいと考えています。私たちにできることは微々たるものかもしれませんが、私たちの音楽で少しでも心動く時間となっていただけたら嬉しいです。どうぞ最後までお楽しみください。



埼玉ルミナス吹奏楽団

団長 上田 侑輝

この度は、加須市 Flyingcarp Wind Orchestra 第2回定期演奏会にお招きいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

わたくしたち埼玉ルミナス吹奏楽団は、2019年2月に発足したばかりの団体です。団員数も決して多いとはいえず、打楽器類もまだまだ揃わず、結果として選曲にも様々な制約を伴います。今回の合同演奏では、普段取り組めない大曲を演奏できることに加え、大編成ならではの充実した響き、同年代の新たな仲間との出会いと音楽のやりとり、金子和明先生の私たちにとって新鮮なアプローチの指導など、練習時から喜びに溢れた時間を過ごすことができました。

両団には、それぞれの特長と魅力があります。その両団の化学反応を本日はステージ上で披露できることと確信しております。そして、今回受けた刺激は、わたくしたちに新しい風をもたらせてくれることでしよう。

最後になりましたが、本日の演奏会の開催にあたり、ご協力いただいた関係各位、そして会場まで足を運んでくださった皆様に心より御礼申し上げます。



加須市 Flyingcarp Wind Orchestra

指揮者 金子 和明

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

昨今の自粛が是とされる風潮が強く、コロナ禍の文化活動への賛同が未だ得られない状況下で、会場まで足をお運びくださった皆さまには心より感謝申し上げます。

おかげさまでわたくしたちは、埼玉ルミナス吹奏楽団の皆様をお迎えし、第2回目の定期演奏会を開催できることとなりました。これも指揮者の黒川圭一先生、団長の上田侑輝さんをはじめとする埼玉ルミナス吹奏楽団の皆様のご理解、ご協力のおかげです。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

カラーの異なるそれぞれの団体による演奏、そして合同バンドの迫力ある演奏をどうぞお楽しみください。



埼玉ルミナス吹奏楽団

指揮者 黒川 圭一

ご来場の皆さま、本日は誠にありがとうございます。そして、今回の演奏会に当団をお招きいただきました加須市 Flyingcarp Wind Orchestra (KFWO) の皆さまにも心より御礼申し上げます。

さて、KFWOの指揮者である金子和明先生とは、これまでにいくつもの国際交流プロジェクトとともに実施してきました。今回は県内での交流ですが、初回の緊張感、そして次第に打ち解けていく様子などは、国際交流を思い出させるものがありました。異なるバックグラウンドを持つ人同士が交わることの魅力を改めて実感した機会となりました。

両団とも歴史が浅いこともあり、大学生・専門学校生世代が多く在籍しています。感染症蔓延下では批判の対象となることもしばしばある「若者」ですが、実際のところ、オンライン講義ばかりが続く日々で、人との交わりが最も減ってしまったのもこの世代です。防疫対策を取りながら活動してきた一般バンド＝Community Bandの存在は、彼らのなかで、文字通り大切なコミュニティであつたに違いありません。

両団の響きが交わりあう本日の演奏会が、皆さまにとって音楽／吹奏楽の多様な魅力を感じていただける時間になることを心から願っております。

第1部

福島弘和
Hirokazu Fukushima

保科洋
Hiroshi Hoshina

西邑由記子
Yukiko Nishimura

藤原聡(チーム TOIN 編曲)
Satoshi Fujihara / Team TOIN, arr.

和泉宏隆(真島俊夫編曲)
Hirotaka Izumi / Toshio Mashima, arr.

指揮
Conductor

演奏
Wind Band

祝典序曲「祈りは時の流れに輝く」
Overture "Prayer will Shine as Time Goes by"

風紋*
Fû-mon*

星の船
Star Ship

Official 髭男dism スペシャルメドレー
Official HIGE DANDism Special Medley

オーメンズ・オブ・ラブ
Omens of Love

金子和明、黒川圭一*
Kazuaki Kaneko, Keiichi Kurokawa*

加須市 Flyingcarp Wind Orchestra
Kazo City Flyingcarp Wind Orchestra

第2部

J.P. スーザ
John Philip Sousa

吉原詩音
Shion Yoshihara

和泉宏隆(真島俊夫編曲)
Hirotaka Izumi / Toshio Mashima, arr.

A. メンケン(真島俊夫編曲)
Alan Menken / Toshio Mashima, arr.

行進曲「美中の美」
The Fairest of the Fair, March

明日へ咲く花ー吹奏楽のための《Edition LWO》
Blooming toward the future — for wind orchestra «Edition LWO»

宝島
Takarajima

美女と野獣*
Beauty and the Beast*

上田侑輝
Yuki Ueda

指揮
Conductor

演奏
Wind Band

LJK
LJK

黒川圭一、金子和明*
Keiichi Kurokawa, Kazuaki Kaneko*

埼玉ルミナス吹奏楽団
Saitama Luminous Wind Orchestra

第3部

A. リード
Alfred Reed

J. スウェアリンジェン
James Swearingen

上田侑輝
Yuki Ueda

M. ホワイト、A. マッキー、A. ウィリス
(中路英明、郷間幹男編曲)
Maurice White, Al McKay & Allee Willis /
Hideaki Nakaji & Mikio Gohma, arr.

星出尚志編曲
Takash Hoshide, arr.

指揮
Conductor

演奏
Wind Band

エル・カミーノ・レアル
El Camino Real

センチュリア*
Centuria*

Phantom* (世界初演)
Phantom* (World Première)

セプテンバー**
September**

ジャパニーズ・グラフィティⅫ
銀河鉄道999(TV版)～宇宙戦艦ヤマト～銀河鉄道999(劇場版)
Japanese Graffiti XII

金子和明、黒川圭一*、上田侑輝**
Kazuaki Kaneko, Keiichi Kurokawa*, Yuki Ueda**

加須市 Flyingcarp Wind Orchestra
& 埼玉ルミナス吹奏楽団 合同バンド
Kazo City Flyingcarp Wind Orchestra
& Saitama Luminous Wind Orchestra Combined Band

福島弘和

祝典序曲「祈りは時の流れに輝く」

冒頭の重厚感のある輝かしいファンファーレが印象的なこの曲は、元々仙台第一高校の吹奏楽部創立 50 周年を記念して作曲されたものでした。

作曲者の福島弘和は、「50 年の時の流れには良い時もあれば苦しい時も有一筋縄ではいかない苦労があったはず。今日まで絶えず事なく音楽活動を続けることができた事に感謝して、そしてこれからの発展に願いを込めてこの題名をつけさせていただきました」と述べています。確かに、輝かしい祈りの旋律が鳴り響いていたかと思えば、中間部では低音が奏でる旋律から不穏な空気が漂い始めたりと、50 年の間で繰り広げられる一筋縄ではない人間らしいドラマを感じることができるのではないのでしょうか。

人間らしい葛藤や苦悩、そして何よりこの曲に込められた輝かしい祈りを是非感じながらお聴きになってください。また、曲中にあるトランペットやアルト・サクソフォーンのソロにもご注目ください。

(池澤萌々香／KFWO)

保科洋 風紋

保科洋作曲《風紋》は、1986 年に全日本吹奏楽連盟の委嘱により、第 35 回全日本吹奏楽コンクール課題曲として作曲されました。また、課題曲には演奏時間に制限があることから 1999 年に改訂を行い《風紋（原典版）》としても発表され、疾走するリズムと雄大なメロディとの対比が美しい主部が拡大された、聴き応えのある一曲となりました。

静かな冒頭から始まり、そのあと木管楽器による主旋律と、それに対しての金管楽器のファンファーレが奏でられ、これらが繰り返されながら主部へ続きます。さまざまな起伏を経て、突然曲は静まり、序奏の雰囲気をも回想します。しかし、すぐまた盛り上がりクライマックスを迎え、短く激しいコーダで終わります。

「風紋」とは、砂丘や砂漠の上に出来る自然の模様のことです。寄せては返す波のような印象を与える導入部から、砂浜に残された風の紋を連想し、《風紋》と名付けられました。

歴代のコンクール課題曲の中で最も人気の高い名作と評されています。それではお楽しみください。

(石丸謙／KFWO)

西邑由記子 星の船

この曲は、七夕をテーマに作曲されました。題名の《星の船》とは一年に一度、七夕の日にだけ会うことを許された織姫と彦星が、お互いに会いに行くために天の川を渡る際に乗った船を表しています。

クラリネットとアルト・サクソフォーンによる温かなメロディと、ユーフォニアムの対旋律からこの曲は始まり、穏やかな雰囲気の中で同じ旋律を様々な楽器が繋いでいきます。中盤ではオーボエがメロディを変えながらひとつの盛り上がりを見せ、コントラバスの一音でエンディングを迎えます。それはまるで、織姫と彦星が年に一度きりの楽しい時間をすごしたのち、別れを惜しみながら来年の七夕を早くも待ち焦がれているようにも感じられます。

この季節にふさわしいロマンチックな 1 曲です。ぜひ七夕の星空を思い浮かべながらお楽しみください。

(油科依里／KFWO)

吉原詩音

明日へ咲く花 ― 吹奏楽のための《Edition LWO》

この曲は、埼玉ルミナス吹奏楽団団員の吉原詩音が2020年に作曲した《明日へ咲く花 ― ウィンド・アンサンブルのための》を、作曲者本人が同団の演奏に際して書き直したものです。2021年3月13日にさいたま市馬宮コミュニティセンターで行われた埼玉ルミナス吹奏楽団第1回定期演奏会にて改訂初演されました。

元々は、新型コロナウイルスの影響によって吹奏楽コンクール出場の機会を失った吉原の母校である中学校の吹奏楽部3年生13名のために作曲されたもので、「これからの人生を花のように美しく咲かせてほしい」との作曲者の願いが込められています。

サクソフォーンとホルンによる序奏部から始まり、落ち着きのあるテンポで音楽が進んでいきます。その中には自然の情景が滲んで見えるかのような、20世紀初頭にフランスで誕生した印象主義音楽の響きが聴かれます。アルト・サクソフォーン独奏のあと、最後は軽快な音楽へと転換し、華やかに締めくくられます。この結尾部は、不安や悲しみの多い「現在」から、明るい「未来」という希望へ向かうことを彷彿とさせます。

「どんなに強い風が吹こうとも、そのしなやかさによって折れずに咲き続ける」ことができる花を、コロナ禍での逆境に立ち向かう人々や自分自身の姿に置き換えて聴いてほしいと作曲者は述べています。(印出也美／LWO)

和泉宏隆／真島俊夫編曲

宝島

T-SQUAREのメンバー和泉宏隆作曲の《宝島》は、1986年のアルバム『S・P・O・R・T・S』にて発表されました。

吹奏楽版は、オリジナルとは異なる雰囲気のあるサンバ調で、冒頭のラテン・パーカッションのアンサンブル、管楽器のトゥッティでによるメロディ、ホルンに時折聴かれるグリッサンドなど、演奏者の金管楽器のリフなど聴きどころが満載です。また、原曲では、和泉宏隆のピアノソロが後半に聴かれますが、吹奏楽では、通常アルト・サクソフォーンのソロによって演奏されますが、本日はどのような形となるでしょうか。

吹奏楽編曲は、第1部で演奏される《オーメンズ・オブ・ラブ》と並び真島俊夫によるもので、わが国の吹奏楽経験者ならば誰もが知る名アレンジとして、現在までどちらも大変幅広く演奏されています。

両曲の作曲者である和泉宏隆氏は、2021年4月26日に62歳の若さでこの世を去りました。この作品を演奏することで、作曲者が吹奏楽界にもたらした功績を讃えたいと思います。(日下温／LWO)

上田侑輝

LJK

女子高生たちの間で、高校3年生はしばしば「LJK」(Last Joshi Koseiの略)と呼ばれます。彼女らは様々な感情を抱きます。キラキラした青春による楽しさはもちろん、未熟な年代故の情緒不安定さや危うさ、そして卒業の嬉しさと寂しさなどが、3分間で次々と展開されていきます。

この曲は、埼玉ルミナス吹奏楽団の上田侑輝により作曲されたオリジナル・ナンバーで、団の発足当初から演奏し続けています。現在、当団は若い世代のメンバーで構成されていますが、もう何年かが過ぎると演奏の雰囲気も変わってくるかもしれません。当団の、今だからこそできる、若々しさ、みずみずしさをお楽しみいただけますと幸いです。(上田侑輝／LWO)

A. リード

エル・カミーノ・レアル

《エル・カミーノ・レアル》という題名は、スペイン語で「王の道」という意味です。副題に「A Latin Fantasy」（ラテン幻想曲）とあるように、フラメンコを思わせるようなメロディとともに曲が始まります。アメリカ・カリフォルニア州には題名と同じ名前の街道がいくつかあり、リードはこれらの街道からインスピレーションを受け作曲したとされています。

この曲は、「速いー遅いー速い」の三部構成となっています。速い部分はスペインの民族舞曲であるホタを、遅い部分はフラメンコで男女のペアが踊るダンスが代表的なファンダンゴを思い起こさせます。遅い部分にあたる中間部には、哀愁漂うオーボエ・ソロや悠々としたユーフォニウム・ソロがあります。

約10分の大曲ですが、とても聴きごたえのある1曲です。2016年にTBS系で放送された「日曜劇場『揚げば尊し』」でも使用された曲であり、聴いたことがある方もいらっしゃるかもしれません。ソロや曲の構成にも注目しながら、異国情緒あふれる雰囲気をお楽しみください。（西木春奈／KFWO）

J. スウェアリジェン

センチュリア

ジェイムズ・スウェアリジェンはアメリカの作曲家であり、スクールバンドのための作品が多いことで有名です。日本においてもその作品群は小・中学校の吹奏楽部で親しまれ、演奏会やコンクールのレパートリーとして取り上げられてきました。

この曲も、アマチュア向けを前提に書かれた作品ですが、音楽の内容も簡単というわけではありません。《センチュリア》は、「序奏＋複合三部形式＋コーダ」で書かれています。序奏部ではホルネット（トランペット）が主題を高らかに演奏し、その旋律がクラリネットやフルートによって主部に引き継がれます。また序奏では「B♭-A-G-F」というバスの進行が2度繰り返されます。この進行は曲のあらゆる部分で使われており、曲全体を支配する音が冒頭で提示されていることが分かります。主部の途中には「2+2+3」の大きな変拍子があり、旋律にはエオリア旋法が、伴奏には並行和音が使われており、西洋離れた民族音楽的要素が感じられるのではないのでしょうか。中間部は、雰囲気が大きく変わり、落ち着いたテンポの中でホルンや木管楽器をはじめとした温かい音色の楽器によって旋律が演奏されます。各楽器のソロやソリも聴きどころです。打楽器のアンサンブルによって再び主部に戻ります。初めの主部とまったく同じではなく、引き伸ばされた主題と中間部の旋律が同時に重なり合う部分があり、作曲家の遊び心や高度な作曲技法を感じられます。このように、様々な音楽的内容が盛り込まれた作品です。

題名の「Centuria」とは100（人）の集まりを表すラテン語であり、英語で100年や世紀を表す「century」の語源でもあります。今回は前曲の作曲家アルフレッド・リードが生誕100周年であることに合わせて演奏いたします。

一般バンドだからこそできる、大人な解釈によるセンチュリアをお楽しみください。（大井歩／LWO）

金子 和明

Kazuaki Kaneko



埼玉県立庄和高校、県立久喜高校、県立不動岡高校と3校で吹奏楽部顧問、指揮者を担当。不動岡高校では2017、2019年に埼玉県代表として西関東吹奏楽コンクールへ出場を果たした。国際交流活動も積極的に行い、ドイツ、中国、台湾、シンガポール、マレーシアからの訪日団体を受け入れたほか、2度に渡る海外演奏旅行（シンガポール・マレーシア）を実施した。2018年には西関東バンドクリニックにて、埼玉県高校合同吹奏楽団を率いて参加、指揮をして好評を得た。

現在、埼玉県吹奏楽連盟常任理事、東部支部支部長、埼玉県高等学校文化連盟吹奏楽専門部会理事、（公財）日本吹奏楽指導者協会埼玉県部会常任理事、加須市Flyingcarp Wind Orchestra 指揮者、埼玉県立不動岡高等学校社会科（世界史）教諭。

YouTube「カネゴンチャンネル」：<https://www.youtube.com/channel/CmNPHaideIqZvjwADtoCJEg>

黒川 圭一

Keiichi Kurokawa

1980年埼玉県生まれ。さいたま市在住。編曲家、楽譜浄書家、吹奏楽指導者ほか。

高校在学中より編曲を手掛け始め、以来、吹奏楽、アンサンブルを中心に、クラシックからポピュラーまで幅広いジャンルに亘り、東京佼成ウインドオーケストラや陸上自衛隊中央音楽隊、同中部方面音楽隊などにもスコアを提供してきている。現在、多くの編曲作品がブレーンミュージック（日本）や Retsel Mil（シンガポール）から出版、レンタルされている。

吹奏楽指導者としても、小学校から一般バンドまで、また日本国内のみならずシンガポールやマレーシア、中国、香港、台湾など、国内外で様々なバンドの活動をサポートしてきている。クリニックとしての活動も幅広く、国内の地域の講習会、ヤマハ中国ならびにシンガポールによるクリニック、功学社（ジュビター）による台湾巡回講習会などに参画している。

その他、『バンドジャーナル』誌での定期的執筆、吹奏楽を通じた国際交流活動のコーディネート、また2019年にはWASBE（世界吹奏楽協会）ブニョール大会（スペイン）にて、日本の吹奏楽事情に関するプレゼンテーションを行うなど、幅広く活動を展開している。

（公社）日本吹奏楽指導者協会埼玉県部会監事、世界吹奏楽協会（WASBE）会員、埼玉ルミナス吹奏楽団常任指揮者、ヤマハミュージックアベニュー渋谷公園通り Finale 講座講師。

ウェブサイト：<https://keiichikurokawa.jp>



加須市 Flyingcarp Wind Orchestra

Kazo City Flyingcarp Wind Orchestra

当団は埼玉県立不動岡高校吹奏楽部 OB・OG を母体とした一般吹奏楽団です。しかし、不動岡高校吹奏楽部 OB・OG のみならず、様々なバックグラウンドを持つメンバーで構成されています。普段の練習から音楽を楽しみ、演奏会本番ではその音楽の楽しみを観客の皆様と共有することを目的としています。

主な演奏機会は、国内での自主公演はもちろんのこと、音楽を通じた国際交流の場として、定期的に海外への演奏旅行も予定しております。



埼玉ルミナス吹奏楽団

Saitama Luminous Wind Orchestra

2019年2月17日の「天使の囁きの日」に結成された一般バンドです。当団の名称にある“Luminous”には「光」「輝く」「明るい」などの意味があり、団員一人ひとりが輝く存在となれるような音楽活動を目的としています。現在は埼玉県を中心に地域行事やアンサンブルコンテストへの出場の他、YouTubeに演奏動画を投稿するなど、幅広く活動しています。

2021年3月13日には、初の自主公演となる第1回定期演奏会を開催し、大成功を収めました。



感染症対策へのご協力のお願い

- ・ マスクの着用、咳エチケットの実践をお願いいたします。マスクを着用されない方の入場はお断りいたします。
- ・ 会場内では極力会話をお控えくださいますようお願いいたします。
- ・ 終演後は出口付近の密集を緩和するため、時間差での退場にご協力をお願いいたします。
- ・ 感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等の公的機関へお客様の情報を提供させていただく可能性がございます。Google フォームを通じての情報提供にご協力をお願いいたします。
- ・ 演奏者への差し入れ、楽屋口等での面会などはお断りいたします。

演奏をお楽しみいただくために

- ・ 写真撮影・録画・録音はお断りいたします。
- ・ 携帯電話の電源、時計のアラームはお切りください。キーホルダーの鈴や飴の包み紙の音などにもご注意ください。
- ・ 演奏中にプログラムをご覧になる際は、ページをめくる音にご配慮ください。



L3
Saitama Luminous
Wind Orchestra